



明治四十一年創業 中山道高宮宿 tanakaya-communication



株式会社 田中家石材
VOL. 17
発行/株式会社 田中家石材
住所/彦根市高宮町1-08-1
電話/0749(2)58888
HP: http://www.tanakaya-sekizai.com/
Mail: info@tanakaya-sekizai.com

お彼岸です。お仏壇とお墓に手をあわせましょう。

昭和二十三年に「国民の祝日に関する法律」により、春分の日は「自然をたたえ、生物をいつくしむ日」と制定されました。

旧暦二月の中気で、お彼岸の中日でもあります。真西に日が沈むこの日、真西に沈む太陽は極楽の東門に入ると伝えられていることから、この日の太陽を拝むと、浄土の東門を拝むことになり、極楽浄土は十萬億土を隔てたところにあるといわれ、この極楽が最も近くなる日が彼岸の中日と考えられています。

この日に故人の霊を供養すると、迷わず極楽浄土に成仏できるといわれており、死者の冥福を祈り、仏供養おはぎ(ぼたもち)、草餅、五目ずし、稲荷ずしなどを作ってお墓参りをします。

春分、秋分の日をはさむ前後七日間を彼岸と言います。

初日は彼岸の入り、中心の日は中日、最後の日は彼岸明けといって、合わせてこの七日間は、各寺院、家庭で彼岸会の法要が行なわれます。「春分の日」は「自然をたたえ生物をいつくしむため」に、また「秋分の日」は「祖先を尊び、亡くなった人をしのぶため」に、国で祝日に定めているように、彼岸は、あの世(彼岸)の死者の安らかな成仏を願うという意味にあてられているのです。



先祖まつりは心の支え

人間や動物には、生と死が必ずあります。生殖と死滅の神秘にはだれも逆らうことはできません。庭先の草花だって、冬は枯れ、春になると花をつけることを繰り返すのです。

浄土真宗のお経に「帰命無量寿如来、南無不可思議光」とある意味は、世の中はひとり生きられるものではありません。もろもろたれつ不思議な縁のなかで生きているのです。その永遠なる生命を感得して、仏縁によって生まれた生命を大切に、感謝しながら生きることを教えています。

また「般若心経」の「色即是空」「空即是色」とは、形あるものはなくなり、またなくなるのではなく、あるものでそれはまたないのと同じである。ということのようです。なにやら凡人には訳のわからないことですが、要するに私たちはいくら考えても悟りきれない凡夫で、これが人間というものかもしれません。

ものです。人は悲哀の感情が高まると故人の声を聞きたくなり、故人に対面しようと思います。祖先への報恩感謝の念を深めれば、なにか運命が変わるようで、幸せが舞い込んでくるような思いにかられるのです。心の中に祖霊が宿り、不思議なおかげをこうむると考えている人があるのも無理ではないと思います。これが、私たちの平和な考えであると思います。

墓を祀ることを、別名養老といい、先人先輩に尊敬の念をもつ心を養う場所が、墓であるといっても過言ではありません。恩人の墓、先師の墓に参る人は、この養老の心を知る人たちでしょう。

先人たちの墓には、それなりの徳分が詰まっています。その徳分を引き出して自分のものにするかどうかはその人の心の持ちようにあります。自分の祖先の墓に、この養老の意義を知るか知らないかの差は、その人の人生の大きな差となって現れることを考えるべきであると思います。

参考文献より抜粋

写経のすすめ

写経は言うまでもなく仏の教えを広めるために、印刷機のない時代、書生が写したお経のことを言います。天武天皇の時、飛鳥の川原寺で始まったといわれます。

お墓を建てても、何か物足りないという時があります。そんなとき、写経行を一日に三十分でも行えば心が豊かになり、そうしている自分を幸せと感じると思います。その感謝と祈りのところを死者に手向けるために、遺骨と一緒に埋納してあげることで、大変な功德になることはお経にも書かれています。

白玉石に書く写経は何百年後までも確実に残り、仏法の心は語り継がれていきます。一字書くことに合掌する気持ちで、家族や親族も参加して心をこめて書



くことです。仏壇の前で。仏壇がなければ机の上に線香を立て、ろうそくを点じ、半紙の上に数珠を置き、その数珠の環の中に紙を置いて書きます。

写経は家族みんなで行うのがいいです。小さい時にした写経は子どもたちが成人して、それを思い出すでしょう。これが仏縁になります。だから写経は他人でもよいので、縁のある人は書いて載せて、写経の輪を広げることです。

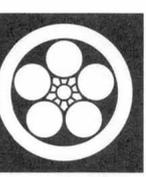
特に遺骨の無い、まぶたの父母や兄弟をまつるときは、この写経を遺骨として埋納することが良いことだと思います。

※京都の古い商家で、墓に宝物があるという言い伝えから、墓を改修したことがあります。ところが、墓の中から出てきたのは、三百年も前の小石の写経でした。法華経八巻が、小石に一字ずつ写経してありました。考えてみればこれこそまさに宝物というべきではないかと思えます。

参考文献より抜粋

我が家の家紋

◆梅紋(うめもん)



(梅紋の一例) 丸に梅鉢

この紋は、天神さまと切っても切れない縁があります。これは、菅原道真の梅花好みからおこったようです。その菅原道真を祭っているのが、あの受験の神様「天神さん」です。その天神さまの社紋をみると、梅に似た紋がみついています。京都の北野天満宮は「梅星」、東京の湯島天神は「梅鉢」、福岡の太宰府天満宮は「梅花」となっています。菅原道真の子孫を称した、加賀の前

田氏の「梅鉢紋」が有名です。いまも昔も天神信仰者は多くいます。それで、梅紋は栄えました。菅原氏をはじめ、藤原氏、源氏、橘氏さらに平氏、丹治氏、日下部氏ほか多くの諸氏が使用しています。元首相で故人の池田勇人氏の家も熱心な天神信仰者で「梅花」を家紋にしています。梅紋は天神信仰の広まっている近畿、美濃、近江、北九州地方に多くあります。

西郷隆盛

命もいらす名もいらす
官位も金もいらぬ人は始末に困るものなり。
この始末に困る人ならでは**艱難**をともし、
国家の大業は成し得られぬなり

今の政治は、利権が絡んだり保身ばかりを考えているように思います。いま一度、百数十年前の西郷隆盛の言葉を『政治家、政治を志しておられる方』の胸に刻んで頂きたいと切に思う昨今です。